
砂時計

柳真

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

砂時計

【Nコード】

N6705F

【作者名】

柳真

【あらすじ】

1人の男が1人の女の子に恋をして、本物の恋を見つけていく。

#1（前書き）

続きを書くかは分かりません

1

「また会えるかな？」

君が言ったこの言葉は今でも忘れない。

ある年の夏、
僕の高校野球人生は
幕を閉じた。

最後の夏の背番号は8。
本当は1がよかった。

でも

しろうがなかった。

何度かつけた背番号1は
僕が背負うと
いくらか不甲斐ない。

僕の彼女は同い年のマネージャー。

とても仕事熱心で
とても楽しい子だ。

僕らが入学して間もなく

彼女は3年生の野球部の先輩と付き合い

その時僕はあまり意識はしていなかった。

夏には僕も彼女ができ、

そしてクリスマス前に振られた。

いつ彼女と先輩が別れたかは知らない。

いつから僕と彼女が仲良くなったかは分からない。

けど

いつしかピッチング練習後のアイシングの時、

彼女が持ってきてくれるのを期待していた。

少しだけ話す

たわいもない会話

とても幸せだった。

それが唯一練習中に顔が緩んでしまう時間だ。

何カ月かそんな関係が続いた後、

僕らは付き合い始めた。

その頃にはもう何も気兼ねなく話せる仲だった。

エースとマネージャー。

タッチを連想する人もいると思う。

だけど実際は似ても似つかない。

でもまた違うタッチを

二人は作っていた。

練習が終わった後

2人で階段に座って話したり

反対方向の彼女の家の途中まで自転車で一緒に帰ったり

小さな手紙を交換し合ったり

ラブラブというより仲良しという言葉の方がしっくりきた。

休日はもちろん試合か練習。

どこかに遊びに行ったという記憶はほとんどない。

むしろそんな状況さえも2人は楽しさに変えた。

とても幸せな時間が流れた。

だけど僕はその安心感を

時間を重ねると共に

履き違えていくようになった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6705f/>

砂時計

2010年11月25日02時53分発行